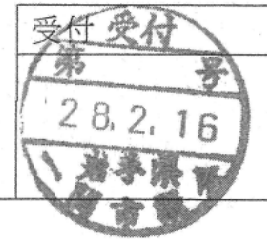


報告書

一関市議会議員 千葉大作 様



報告年月日	平成 28 年 2 月 16 日
視察年月日	平成 28 年 2 月 7 日
視察先	北上市石本町 日本現代詩歌文学館 講堂
視察内容	講演会 「どう考える岩手の森 林業の未来」 －自伐型林業がひらく「地方創世」in 北上
報告者	一関市市議会議員 及川忠之
報告要旨	1、 視察目的 別紙 (1) 2、 視察先概要 別紙 (2) 3、 参考とすべき事項・所感 別紙 (3)
主要 資料名	別紙のとおり

別紙（１）

1 視察の目的

「未利用となっている山林を、山村再生の起爆剤とならないか。」

「山村のどこにでも有る、未利用の山林を活用策はないものか。」

山村に住んでいる私だから山林を積極的に利用し、地域の活性化、地域の再生に役立つ手法がないものか、との思いから、表記の研修会に参加した。

別紙（２）

2 視察先の概要

北上市 日本現代詩歌文学館 講堂

広葉樹材を積極的に利用している企業が主催となつての企画である。

主催 県南自伐型林業元年フォーラム

新北菱林産株式会社

共催 特定非営利活動法人自伐型林業推進協会、新北菱林産株式会社

後援 岩手県

北上市

以上の団体で開催された。

別紙（３）

3 参考とすべき事項・所感

現在の林業経営、森林管理は、森林組合か企業が山林所有者から委託を受けて、管理、経営をするというのが主である。今回の公演は「自伐型林業」ということであつたのでおおいに興味を持った。

、「自伐型林業」とは、高性能林業機械等の装備が必要なく、チェーンソー以外はすぐに装備する必要もなく、運搬車、トラック、等々は利益が出来てから装備をしてもよいということであり、誰でもすぐに参加できるということであつた。

また、従来の「土地所有」と「林業経営」が分離している、特に、官行・県行造林等分集林の林業経営が契約期間約50年での伐採をする短伐期型が主流となっていることや、山は皆伐され、木価は再造林をすることが出来る価格にはなっていないため放置され、自然災害を起こす原因になっているのではないかと考えられる。

このような林業環境に対して、「自伐型林業」は自前で間伐をする、間伐をするのは将来100年生の杉を作るとすれば、10回程度間伐をするということ誰でも出来るということがき、所得も得られるということであつた。